

富士紀行（90） かかる教官ありき（車椅子社交ダンスの創始者）

（H13/8/24 記）

自衛官としてよりも、車椅子ダンスの創始者でありボランティア活動を積極的に実施していることで有名な自衛官が富士学校に今春転入してきた。その自衛官は、普通科部教育課戦史教養班長黒木実馬2等陸佐である。飄々とした風貌からは彼が車椅子ダンスの創始者であり、テレビでも採り上げられた著名人というイメージを伺い知ることが出来ない。彼の防衛大学時代を知る私としては、未だに信じられない（と言ったら失礼であるが・・・）。尚、参考までに、彼は北朝鮮の突然の侵攻によって始まった朝鮮戦争史の研究をライフワークとしており、自学研鑽の為或いは、学生を引率して韓半島に出かけること10指に余る。



車椅子社交ダンスのスナップ（中央、黄色のシャツを着て車椅子の人とダンスしているのが創始者である黒木実馬2等陸佐です。）

以下、彼の車椅子ダンスとの出会いや現在の活動状況を語ってもらおう。

黒木2佐談

1 動機・きっかけ

ボランティアは高校3年生の時から始め、39歳で社交ダンスを覚えまして、42歳でインストラクターを取りました。その頃、ある先生が欧州で実施されていた車椅子ダンスを日本に紹介しました。私はボランティアと趣味を結合できると思い関心を持ったのですが、それは競技会専用の踊りで、私が目指す福祉活動とは違っていました。

それで自分なりのものを創ろうと思い、一般の介護用の車椅子で誰でも簡単に踊れる車椅子ダンスを系統立てて創案し、名称も車椅子社交ダンスとし、特許庁に商標登録して認められました。[登録番号:第4454422号(13.2.23)]

商標登録した目的は、他人に金儲けの道具にされないため、ボランティア活動として誰にでも無料で教えています。内容的にはブルースからワルツ・タンゴ・チャチャ・サンバまで何でも踊れます。

2 現在の活動状況

最初は平成7年に北恵庭駐屯地から僅かな人達で始めたのですが、現在では札幌から沖縄の男娯まで全国の市町村に、108の支部と約2700名の会員が活動しており、年間延べ3万名位の人に対するボランティア活動を実施しています。平成11年6月には特定非営利活動(NPO)法人に認証され、理事長を勤めさせてもらっています。

年に一度、全国大会を開催していきまして、今年は11月17日(土)に船橋市の「船橋ア

リーナ」で開催致します。例年、全国から 700 名位の方に御参加いただき、その内 100 名位が車椅子や視覚障害の方たちです。私たちの活動に勝ち負けは無く、皆で楽しく踊る全国大会です。

本年度から活動の中に車椅子フォークダンス(特許庁申請中)を加え、福祉関係の学生が多数参加するようになりました。今年はボランティア国際年ですので、それにちなみ、今回の韓国研修旅行にからめ、ボランティア会員 15 名も渡韓し、教科書問題の逆風が吹き荒れる中、しっかり活動してきました。「至誠をもって動かざる者、未だあらざるなり」を実感し、両国民がお互いに感激の涙を流して帰ってきました。

3 今後の希望・抱負

日本の福祉行政は縦割り構造で、ある市町村で実施しても、それがなかなか隣の町には伝わりません。それで私たちは日本全国にある 3255 の市町村すべてに支部を設立し、インストラクターを育て、車椅子の人や高齢者がどのダンスパーティー会場に行っても、誰かインストラクターが居て一緒に楽しく踊れる、このような社会環境の実現を目指します。

4 皆に望むこと

障害者が障害者として生まれたのは偶然であり、健常者が健常者として生まれたのも偶然であって何も努力したわけではありません。地球に生まれ楽しく生きる権利を持つ者同士、障害者であるがゆえにできない事に対し、健常者は手を差し延べるのは人間として最小限度の義務です。心にボランティアに参加する優しさと余裕を持ちましょう。

[車椅子ダンス交流会のスナップ](#)